

1 背景等

- 林外務大臣は9月19日～23日にNYを訪問し、積極的な外交を展開。8つの多国間会合、15の二国間会談、2つの首脳会談同席等。
- ロシアのウクライナ侵略等により国連が試練の時を迎える中、また、2023年1月からの日本のG7議長国就任と安保理入りを控える中での訪問。



岸田総理の
一般討論演説



G7外相会合



日米韓外相会合



ブルーパシフィック
におけるパートナー会合



UHCフレンズ閣僚級会合



現・新非常任理事国の
顔合わせ

2 ポイント

- 林大臣は、各国との会談等において、岸田総理の一般討論演説を踏まえ、国連の理念と原則に立ち戻ること、安保理改革を含め国連全体の機能を強化し、国連への信頼回復を図ること、「法の支配」の徹底を図ることを中心に議論。
 - 各国から総じて肯定的な反応。G7外相議長声明や日米豪印外相共同発表において国連強化の重要性を確認。
 - 各国の一般討論演説でも、日、米、アフリカ、総会議長を含む多くが安保理改革など国連強化に言及。G4外相や日米豪印外相でも安保理改革推進を確認。
- ウクライナ情勢、食糧・エネルギー安全保障等でのG7の連携を確認。
- 自由で開かれたインド太平洋の促進と日米豪印の連携を確認。
- 中国、北朝鮮等につき率直に意見交換。有志国間の連携を確認。
- 太平洋島嶼国との協力等を関係国間で確認。
- ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ(UHC)、新型コロナ対策など地球規模課題の解決に向けた日本の積極的な貢献を発信。
- 安保理非常任理事国10か国及び2023年からの新非常任理事国5か国(計15か国)と顔合わせ。一部の国とは二国間会談を実施し(インド、ブラジル、アルバニア、マルタ)、連帯を確認。

1. 多国間会合

- (1) グローバル食料安全保障サミット(9月20日)
- (2) ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ(UHC)フレンズ閣僚級会合(9月21日)
- (3) G7外相会合(9月21日)
- (4) 日米韓外相会合(9月22日)
- (5) ブルーパシフィックにおけるパートナー(PBP)外相会合(9月22日)
- (6) G4外相会合(9月22日)
- (7) 日米豪印外相会合(9月23日)
- (8) 新型コロナ対策(グローバル行動計画)に関する外相会合(9月23日)

3. その他

- (1) ジャパン・ソサイエティ幹部との昼食会(9月19日)
- (2) リッシュ米国上院議員による表敬(9月20日)
- (3) クレッグMeta国際問題担当プレジデントによる表敬(9月21日)
- (4) コロンビア大学関係者との懇談(9月21日)
- (5) 日フィリピン首脳ワーキングランチ同席(9月21日)
- (6) 日イラン首脳会談同席(9月21日)
- (7) 日本食・食文化レセプション(9月21日)
- (8) 現非常任理事国と新非常任理事国との顔合わせ(9月22日)
- (9) 国連関係機関日本人職員との懇談(9月23日)

2. 二国間会談等

- (1) 日マルタ外相会談(9月19日)
- (2) 日韓外相会談(9月19日)
- (3) 日英立ち話(9月20日)
- (4) 日チェコ外相会談(9月20日)
- (5) 日チリ外相会談(9月20日)
- (6) 日アルメニア外相会談(9月20日)
- (7) 日キルギス外相会談(9月21日)
- (8) 日スリナム外相会談(9月21日)
- (9) 日コロンビア外相会談(9月21日)
- (10) 日ベルギー外相会談(9月21日)
- (11) クールシ国連総会議長との会談(9月22日)
- (12) 日ヨルダン外相会談(9月22日)
- (13) 日エジプト外相会談(9月22日)
- (14) 日ブラジル外相会談(9月22日)
- (15) 日アルバニア外相会談(9月23日)

- ◎ロシアによるウクライナ侵略等を背景に、一般討論演説で**安保理改革**や**国連の強化**の必要性に、**日本、米国、国連総会議長**を含め、例年よりも多くの言及がなされた。
- ◎G4(日独印伯)、日米、日米豪印、G7でも基本的認識を共有。
- ◎安保理改革は各国の立場の違いも大きく、国連憲章改正の高いハードルあり。
(①国連加盟国の3分の2(129か国)賛成での総会決議採択、②5常任理事国全てを含む129の本国での批准)



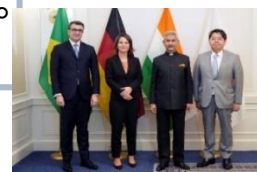
岸田総理の
一般討論演説



バイデン米大統領の
一般討論演説



クールシ総会議長の
一般討論での発言



G4(日独印伯)
外相会合



日米豪印外相会合

1 一般討論演説(主なもの)

- 岸田総理から、国際社会における法の支配に基づく国際秩序の徹底のため、国連憲章の理念と原則に立ち戻り、**国連全体の機能強化**の重要性を指摘。その一部である**安保理改革の実現に向けた行動**として、**文言ベースの交渉開始**等を訴えた。
- バイデン米大統領**は、安保理の信頼性と実効性のため、米国を含む安保理理事国が国連憲章を一貫性を持って堅持し、**拒否権行使を抑制する(例外は極限)**よう呼びかけ、また、米国として**安保理の常任・非常任双方の議席拡大**の支持を表明。常任入りを支持する国として、「米国が長年支持してきた諸国」、アフリカ及びラテンアメリカ・カリブ諸国に言及。
- クールシ国連総会議長**(ハンガリー)は、国連全体の信頼性の問題として、安保理改革の**交渉を進める**旨表明。(注:総会議長は、安保理改革の政府間交渉の議長を任命する等の立場)
- その他、仏、独、印、伯、ウクライナ、アフリカ28か国を含む66か国が安保理改革に言及。
(注:本年は190か国が演説を実施。昨年は安保理改革に言及したのは37。)

2 有志国間の認識共有

- G4外相会合では、政府間交渉における早期の文言ベースの交渉開始に向けて、総会議長、アフリカ諸国、米国とも連携しつつ、早期に具体的成果を目指すことで一致。
- 日米首脳間で連携を確認。G7外相議長声明や日米豪印外相共同発表においても国連の強化の重要性を確認。日米豪印外相会合では、常任・非常任双方の議席拡大を含む国連改革へのコミットメントに言及。